

幼児の手技に就いて

久門嘉祐

一、幼稚園の手技

(イ) 幼児の手技
(ロ) 先生の手技

従来幼稚園の手技は「幼児がするもの」「幼児の出来るもの」「簡単なもの」………こういう考が頗る濃厚で簡單といふ垣根を一步も踏み出すことのできぬ派目に陥つて居るのではないかと思ひます。こうして幼稚園の手技は繪にも唱歌遊戯にも童話にも先立たれて獨り取り残されて居るやうな憾があります。世は進んで居ります。時々刻々に新しい生命に生きて居ります。幼稚園の手技も一步だけ新しい世界に踏み出したものと熱望する次第であります。全體其の簡單といふことは何處を基

準として言ふのでありませうか、頗る曖昧なものであります。勿論幼稚園でありますから簡單でなければならぬことは言ふまでもないことであります。年齢も智慧の進度も身體の發育も趣味も傾向も各其顔の異つて居る如く一人一人異つて居ります。其上家庭で教育的に仕付て行く家庭と一方向子供の世話の行き届かない家庭とがあり、又各其環境が異つて居ります。同一のものを一様に出來やう筈がありません。それを簡單といふことで統一してさせたならば發達の高級なものとは犠牲にならなければなりません。又最低級なものも到底追ひつくことが出來ぬのであります。統一教育の

弊其ものに陥るのであります。これについて左のやうな事實のお話がございます。「或お祖母さんがお孫さんを連れて入園させる積りで或る幼稚園へ行きました。丁度手技の時間で折紙を教へて居られました。先生が檀に立つてこう三角に折つてそれから四角にして出来ましたか、それからかやして、それからこうくくく始めの三角四角まではまだよかつたが、段々に手が細かくなる目標は小さくなり先生の口は早口になる、これでは子供に可哀想で孫などはちとぼんやりでございませうから萬事にこういふ風ではとても駄目と存じ入園の願をせず其の儘連れて歸りました」といふことでありました。幼稚園に統一教育は禁物であります。それが只簡單といふだけで統一すると自然に此の弊に陥り易いのであります。全體手技は決して頭でするものではありません。讀んで字の如く手先の技でありますから、無理に簡單く

と言ふてゐないでも各兒の出来だけ天分だけすんくく伸ばして差支あるものではありません。試に繪の上手な先生が幼兒の繪を指導するのを御覽なさい。些の無理はなく、自然に非常に面白くすんくく進んで、中には幼兒のかいたものとは思はれぬ程の繪をかくものも出来る位であります。又粘土の上手な先生に自然に幼年彫刻家といふ面影を其の作品から見取ることの出来る程の彫刻を出して居ります。音樂に堪能な先生は自然幼年音樂家を作り、童話に堪能な先生は幼兒を自然にお伽の金殿に安住せしめて情操の機微な點を修養せしめて居ります。又手藝に興味のある先生は其の優美な手によつて可成立派な手藝品を作らせて居ります。よい先生につけば、子供は自然によくなります。子鶯によい鳴を仕込むには是非共よい鳴親につけるのであります。けれどもよい鳴親といふても別に教へ方が上手なのでも勿論無理強に教へ込

むのでもありません。只終始自分の持前の通り鳴いて居るのであります。それを子鶯はいつどう覺えたでもなく自然に覺え込むのであります。右の如き堪能な先生の指導法は丁度これによく似て居ります。其技能にまかせてむりやりに教へ込むいら／＼あせるといふのでは決してありません。只ニコ／＼してゐます。けれども其先生は心もそれに打込んでゐますから自然に其の趣味が其の室内に充滿して居ります。其の氣分が漲つて居ります。そして用意が周到で教へる順序が整然としたものであります。其の上其の先生は其の資料を如何様にも分解し、或は部分／＼を組み合はせ、或はそれを變化せしむることは自由自在でありますから、各兒に適する仕事をすぐにあてがふことは出來ます。故に極々簡單なものをこしらへて居るものもあり又大分進んだものをこしらへて居るものもありますが、其の各が満足して面白くやつて

居るのであります。そして先生も一しよになつて何かこしらへて居ります。こしらへて見せるでもなく自然に見せて居ります。以上のやうな一々結構な方法で幼兒の一人一人の天分を充分に伸ばして居られます。

さて我々が各専門家の眞似をすぐにしようとするのは非望であります。出来るだけはそれと近接したい、そして保育上充分の効果を收めたいと思ふのであります。

一、新しい自信

幼兒の手技じやからといふて、決して馬鹿にする譯ではないのであります。どうも先生の頭が不用意といふことはあり勝ちと思ひます。この状態では幾ら向ふが幼兒でも已に手技の保育には外れて居るのであります。一寸した何の易しいと思ふ程のものでも、明日やることは少くとも其前日位には先生自身が一應こしらへて見

る。そして新しい自信を持つて明日臨むことが是非必要であります。古い自信といふものは存外駄目なもので、何か變つた問題が突發した場合に即妙の考が出るものではないのであります。一度やつて見て充一分に咀嚼し自信を新しく一層力強くし、尙其の間に材料のこと準備のこと教へる順序、用する時間等種々の方面に仔細に研究し明確な頭と方法とを有つて幼児の手技の實際に對するやうにしたいと思ひます。

二、資料の取扱

費用や材料のこと、時日のこと等を考へた上で選定した資料はどんな簡單なものでも必ず一度作つて見る。そして如何にしてこれを幼児に作らせしむるかといふことの具體案を作るのであります。(イ)これは材料を出して置いて幼児に自由にさせる。(ロ)全園児に一樣にさせる。それには最幼児には大きな子供に手傳はせる、作

らせるとか先生が側で作つてあげる。(ハ)又資料によつては幾部分にも分解して其の部分Aは誰々々には出來Bは誰々々Cは誰々々Dは誰々々最後の仕上は先生がといふ風に各兒の實力に應じて各部分を分擔せしむる。(ニ)こうして組の共同製作にする。といふ風に製作法を研究して置くこと。

三、手技の監督

さて幼児の手技の實際となつて材料の分配等諸準備が終つたならば先生も幼兒と一しよに一つこしらへて飾つて置くやうにしたい。そして先生は幼兒の間をニコニコ廻はつてちよいち指導をする。併しこの指導は幼兒の質問には固より親切に答へるのであるが、其製作には干渉をせず全然幼兒に任せたい、只手つき指の動かし方、或は道具の持方便、或は色といふやうな方面を主としたいものでありせず。

四、先生の手技修養

前述の如く幼児にさせる手技は即ち前以て先生がそれに熟練して置かねばならぬのでありあります。それから、幼児の手技即ち先生の手技であります。けれども只それだけでは幼児の手技を指導するには不足であります。幼稚園の先生としての手技の手腕は餘りに貧弱であります。慾を言へば普通婦人としての手藝趣味に於て世間に遅れぬやうにしたい、少くとも幼児向の物でうちのお母さんお姉さんがこしらへて下さつた物が餘程立派だなどと幼児に思はせない程度に進みたい。而してこれは只幼稚園の保育の上の必要ばかりでなく、先生自身修養の爲に精神的慰安の爲に娛樂の爲に是非をうしたいと思ふのであります。

五、幼稚園の裝飾

幼稚園は殊に殺風景ではならぬと思ひます。何

とかして優美にそして可愛い雰圍氣にしたい。

お庭にぶらんこやお砂やお池に金魚を泳がせ花園を作り、其外可愛い面白さうな玩具運道具を設備するもよい。又室内には奇麗なお花を活け面白い玩具を置き、繪畫額をかけるもよい。可愛い椅子テーブルを置もよいが今一つの非常に大切なことは幼児のかいた繪を貼り出し、或は幼児製作の手技品を陳列することであります。第一幼稚園が直に可愛化され、美化されます。幼児は非常に嬉しがり又毎日それを見ては樂しむものであります。次には幼児の張合になり、迫らない不斷の刺戟になり、それが直に各兒の最美の指導ともなるのであることは、殊更に申上ぐる程のことでもないのであります。

六、先生の製作

幼稚園の先生が其趣味に任かせて製作した其の作品を幼稚園に装つて置くことはこれは非常に

結構なことであります。そしてこれは時々取り換へたい。自然に興味が室内に流れ出て和らかな美しい空気にし、幼児の趣味傾向に對して好餌を投げ與へて居るのであります。又それが直に幼児の觀察の好資料となり、又幼児の特技を自然に指導をして居るのであります。物を言はぬ先生、不動不斷の先生であります。これが買つて來たものや理想の低級な職人に作らせたものでは決して其權威がないのであります。

七、家庭の幼稚園化

全體幼児は幼稚園と家庭の二重生活をして居るのではないでせうが、尤も生活がちがひますから止むを得ぬことではあります。併し現在の状態は遺憾ながら餘りに離れ過ぎて居ると思ひます。幼稚園へ來て居るときも家庭に居るのと大して異のない氣分にしたい。又家庭へ歸つて後も幼稚園にあるときと大した相違はないやう

にしたいと思ひます。それが幼稚園でおとなしく先生の言ふことをよく聞いて友達とも喧嘩をしない眞面目にやつて居るが、家へ歸へると大いたづらで、といふのもあり又家ではなか／＼元氣でおしやべりもよくするが、幼稚園へ來ると意氣地がなくて黙つて物も得言はず小さくなつて居るといふのもあり、幼稚園では行儀がよいが家では行儀が甚だ悪い、家ではよく唱歌も謠ふが幼稚園では一向謠へない、幼稚園では物をちやんと始末するが家では甚だ不始末である幼稚園ではお兄さんでよくわかるが家では甘つたれてから赤ちやんです、以上のやうなことはまだしものことでありますが、幼稚園と家庭との縁の薄い關係の冷かであればある程幼児の發育上もつと／＼重大なことが伏在して居ると思ひます。これは是非何とか救はなければならぬと思ひます。それには幼稚園をもつと家庭化

し、又家庭を幼稚園化する必要があらふと思ふのであります。其の一つ方法として幼児の作ったものを時々お土産に持たして歸すのは勿論必要であります。又先生が何か幼児の喜ぶやうな奇麗な物をこしらへて幼児のお誕生のお祝品として、或はお正月お盆のクリスマスのお贈物として、或は三月五月のお節句のとき、或は式日記念日等の場合にお土産として持たして歸すといふことは非常に必要なことと思ひます。幼児が非常に喜ぶのは勿論のことです。幼児が家庭に大事に飾られて直に家庭を美化し可變化し幼稚園化するものであります。そして幼児は勿論であります。家庭の誰でもがそれを見る度毎に幼稚園を思ひ出す。其程度幼稚園に對して優美なあたゝかい感じを持つといふことになり、自然に家庭内は幼稚園氣分で充滿するといふことになるのであります。其の上に婦人

は全體に手藝を好むもので先生の手藝品から自然に先生を敬服するやうにもなるのであります。茲に初めて幼児の二重生活といふものは自然に徐去されることになると思ふのであります。實に偉大と言はねばなりません。(つゞく)

七 夕

藤原顯輔

天の川横ぎる雲やたなばたの

空たきものよけぶりなるらむ

西行法師

舟よする天の川への夕ぐれは

涼しき風や吹き渡るらむ